

7つの外国語を音だけで学ぶ

—小学校での複言語学習の試み—

岩居弘樹^{*1}・藤木謙仕^{*2}

Email: iwai@cmc.osaka-u.ac.jp

*1: 大阪大学サイバーメディアセンター

*2: 岡山県備前市立日生西小学校

◎Key Words 複言語学習, ビデオ撮影, 音声での外国語学習

1. はじめに

本発表では、岡山県備前市立日生西小学校 6 年生のクラスと大阪大学サイバーメディアセンター を結んで実施したオンラインでの複言語学習の取り組みを報告する。

2018 年 9 月から 2019 年 2 月にかけて行ったこの取り組みでは、日生西小学校 6 年生 14 人は全 10 回の授業で、7 言語（ドイツ語・インドネシア語・ペルシャ語・中国語・韓国語・ポルトガル語・ロシア語）を学習した。それぞれの言語の指導は、大阪大学の岩居および大阪大学で研究をしているネイティブスピーカー、および備前市観光協会の職員が行った。

この取り組みは、日生西小学校 6 年生担任の藤木が、11 月の京都・奈良への修学旅行の際に、海外からの観光客に声をかけ、地元日生の紹介をするという活動を企画し、その際相手の母語で挨拶や簡単な自己紹介ができれば、ということから始まった。

2. 授業実践の概要

2.1 授業の流れ

初回の授業は岩居が日生西小学校で、様々な外国語を学ぶ意義とドイツ語、インドネシア語の練習を行い、それ以降は ZOOM¹ を使ってオンラインで実施した。（中国語のみ教室で実施）1 回 45 分の授業で練習した表現は

- ・あいさつ（おはよう、こんにちは）
- ・名前は～です
- ・～からきました
- ・よろしくおねがいします
- ・またあした
- ・さようなら

で、時間の余裕があった時は「～がすき」といった表現や食文化、日本語に入っていることばなどの説明も行った。

2.2 授業後の活動

オンラインでの授業のあと、その日に学習した表現を大阪大学側で録画し、Flipgrid² にアップロードする。生徒たちは iPad でこのビデオを見て復習し、ひとりひとり、あるいはグループで学習成果をビデオ撮影して Flipgrid に提出するという方法で、記憶に定着させることをめざ

した。

2.3 学習の流れ

11/21 の修学旅行を目指して、以下のような流れで学習を行った。

9/21 (教室で) 日本に暮らす外国人について話をしたあとドイツ語とインドネシア語

9/25 教材 World Languages³ を見て学び、好きな言語の挨拶を覚える



図 1 World Languages (Hindi のページ)

9/28 ペルシャ語

10/4 (教室で) 中国語

10/11 ドイツ語

10/26 ポルトガル語

10/31 韓国語

11/14 修学旅行に向けての総復習

11/21, 22 修学旅行

2/20 ロシア語

2/22 地元日生の牡蠣祭りでの観光案内



図 2 NHK for School 番組ページ

¹ Web 会議システム. <https://zoom.us>

² 教育用ビデオ交流 SNS <https://flipgrid.com>

³ 岩居が iOS の Keynote で作成した教材。現在 28 言語の音声とアニメー

ションする手書き文字が収録されている。

⁴ この取り組みは、NHK E テレ「学びが変わる!教育最前線 2019」(2019 年 3 月 29 日放映)で紹介された。

2.4 授業実践に関する成果と反省点

小学校での複言語学習は初めての試みで、毎回手探りの状態で行った。

今回の取り組みは英語以外の様々な言語を音声だけで学習するという方法で行った。サッカー好きの生徒はポルトガル語を、K-Pop ファンの生徒は韓国語を少し知っているということはあるが、生徒たちにはほとんどが初めて触れる外国語で、全員が同じスタートラインから始めることになったため、英語に対してコンプレックスのある生徒も気後れすることなく参加することができた。

韓国語は親しみがある生徒がいたためか、授業の中ではかなり反応が良かったため、数字や「お腹すいた」「～が欲しい」など多くの表現を紹介し練習したが、こちらの期待ほど記憶に残らなかったようだ。

3. ICT 活用について

3.1 ICT 環境

大阪大学と日生西小学校をつないだ遠隔講義では ZOOM を使用した。日生西小学校側は LTE モデルの iPad を使用し、4G で接続した。ZOOM は基本的に細い回線でも一定の品質で通信ができる。しかしこの実践では教室特有の問題点がみられた。

ビデオ会議システムは ZOOM に限らず発言者の声をクリアに送受信することが重要であるが、残念ながら複数の人が同時に発言した場合には音声がかき消されて聞き取れなくなることがよくある。小学校のクラスでは、たとえ人数でもこのような状況が起こることは避けられない。高性能の Web 会議用マイクを使っても解決されない。

3.2 Flipgrid の活用

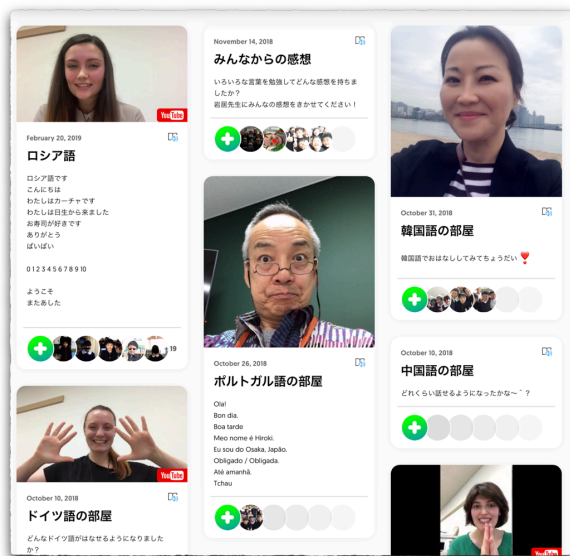


図3 Flipgrid

遠隔授業で学習した内容は、授業後にビデオ撮影し Flipgrid に提出することとした。Flipgrid は教育用のビデオ共有 SNS で、撮影したビデオをクラスに閉じたインターネット空間内で共有することができる。またアプリを使うことで、撮影からタイトル付け、アップロードまで簡単に行うことができるので、スマートフォンやタブレット

端末の操作にあまり慣れていなくても、手順に従って操作すれば問題なくビデオを提出できる。

図3は Flipgrid のページである。ページ上部に学習した表現を確認するためのビデオを置いている。このビデオは、毎回遠隔授業終了後に大阪大学側で撮影し、Flipgrid にアップロードする。

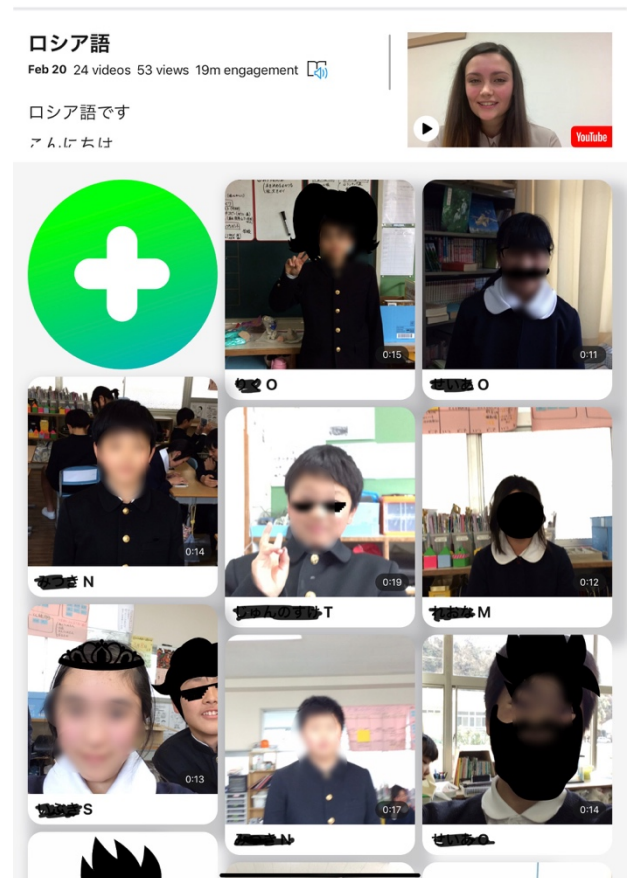


図4 Flipgrid ロシア語のページ

4. おわりに

この取り組みは、2013年に始めた大学院生向けの「多言語演習」や2018年から始めた看護系大学での「複言語学習のすすめ」での経験を小学校向けにアレンジしたものであった。各言語1回だけの授業であっても、学習内容を各自がビデオに記録するという活動を加えることで、生徒がお互いに、失敗を繰り返しながら練習できる機会を提供できることが明らかになった。

参考文献

- (1) 岩居弘樹, 田川千尋, 神田麻衣子: “ネイティブスピーカーとデジタルデバイスを活用した多言語演習の取り組み”, 日本デジタル教科書学会第6回年次大会予稿集, pp.71-72 (2017).
- (2) 岩居弘樹, 周宇鳳, 李銀淑: “学生のスマホを活用した「複言語学習のすすめ」の試行について”, 日本デジタル教科書学会第7回年次大会予稿集, pp.51-52 (2018).
- (3) 岩居弘樹: “学びの成果をビデオに残す試み”, サイバーメディアフォーラム, No19, pp.25-30 (2019).

本研究はJSPS 科研費 JP18H00691 の助成を受けたものです。